

### 三浦・葉山の社協

三浦市社会福祉協議会と葉山町社会福祉協議会が共同で、広域的な障害者就労支援のモデル事業を進めている。これまで単一の社協で行ってきた事業を隣接する市域に広げ、広域のメリットを生かした就労支援を目指すとともに、地域活性化につなげる狙いもある。

(原 隆介)

# 障害者就労 広域で支援

## 横須賀で共同モデル事業

三浦市社協によると、人口規模の小さな三浦市や葉山町内では障害者を雇用できる事業所が少ないため、企業での就労を希望する障害者のニーズに合った就労場所を見つけることが難しいという。

そこで、両市町に隣接し人口規模がおおよそ10倍の横須賀市に目を向けて、モデル事業を立ち上げた。就労支援の場は、市の中心部で市役所などに近い横須賀市米が浜通の居酒屋「えい吉」。

夜間のみ営業だったが、9月からランチ営業を始め、20～30代の男女7人が交代で働いている。

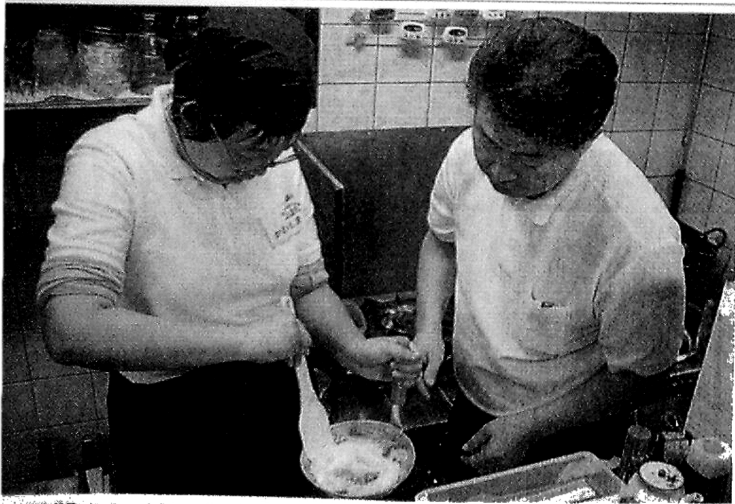
メニューは「地産地消」をテーマに三浦半島産の食材を使った丼ものを中心に7種類を提供。現在は経営者の鶴間昌仁さん(50)が調理を担当しているが、作りやすくて見栄えの良い丼料理の調理方法をマニュアル化し、7人が調理の訓練を重ねている。

事業に理解を示した仕入れ業者の協力で、一番安い卵丼が400円。三崎マグロを使ったマグロ丼でも650円に抑え、毎日平均15食程度売れるという。鶴間さんは「この一帯は昼間は人通りが少ない。協力店が増えて、いろいろな丼が

食べられる」と話題になれば、まちが活気づく」と地域の活性化につながることを話していた。

も期待する。事業のもう一つの大きな特徴は、障害者が得る給与が大幅に増えること。県によると、県内の福祉施設・事業所利用者の工賃は月平均約1万2500円。ここでは時給660円で働くことができ、最終的には月5万円を目指しているという。「お金をためて携帯電話を買いたい」と考えている三浦市の川嶋沙季さん(23)は、「スピードや手順が難しいけれど、早く一人でできるようになりたい」と話していた。

## 居酒屋で訓練 月収大幅増も



鶴間さん(右)から調理の指導を受ける川嶋さん  
＝横須賀市米が浜通